

| 科目名 | 機械力学 | 英語科目名 | Dynamics of Machinery |
|---|--|-------------|-----------------------|
| 開講年度・学期 | 平成 19 年度・通年 | 対象学科・専攻・学年 | 機械工学科 5 年 |
| 授業形態 | 講義 | 必修 or 選択 | 選択 |
| 単位数 | 2 | 単位種類 | 履修単位 (30 時間単位) |
| 担当教員 | 朱 勤 | 居室 (もしくは所属) | 機械工学科 |
| 電話 | 0285-20-2206 | E-mail | zhu@oyama-ct.ac.jp |
| 授業の達成目標 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 機械・構造物に発生する振動を解析するため、モデル化し運動方程式を作ることができる。 2. 運動方程式を解き、物体の振動の様子を定量的に説明することができる。 3. 現場で出会う様々な振動問題を解決するための方法を説明できる。 | | | |
| 各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. ~ 2. 期末試験において 60% 以上の成績で評価する。 3. 課題に対する提出レポートの内容を設定水準で評価する。 | | | |
| 評価方法 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 期末試験 (80%) 2. 演習問題や課題の解答内容 (20%) | | | |
| 授業内容 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 機械力学の基礎-運動方程式の作り方、剛体の力学、慣性モーメント (3 週) 2. ラグランジュの運動方程式 (3 週) 3. 線形振動の基礎-ばねとばね定数、調和振動、共振 (2 週) 4. 1 自由度非減衰振動-運動方程式の導出と解法、様々な振動系 (2 週) 5. 1 自由度減衰振動-減衰振動とは、ダンパーについて、運動方程式の導出と解法、対数減衰率、クーロン摩擦減衰 (5 週) 6. 1 自由度強制振動-力による強制振動 (不減衰・減衰系)、変位による強制振動、振動の伝達、振動測定の方法 (8 週) 7. 2 自由度系の振動-自由振動、強制振動、動吸振器 (4 週) 8. 回転軸の危険速度-ふれまわり、回転体のつりあわせ (3 週) | | | |
| キーワード | ラグランジュの運動方程式、線形振動、共振、減衰振動、強制振動、動吸振器、シミュレーション | | |
| 教科書 | 山田伸志(監修)「振動工学入門(改訂版)」パワー社(2001) | | |
| 参考書 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 佐藤秀紀, 他「演習 機械振動学」サイエンス社 (1996) 2. 背戸一登, 他「振動工学」森北出版 (2002) | | |
| 小山高専の教育方針①~⑥との対応 | 3, 4 | | |
| 技術者教育プログラムの学習・教育目標 | | | |
| (A-1) 科学や工学の基本原則や法則を身につける。 (A-2) 基礎知識を専門工学分野に応用して解ける。 | | | |
| JABEE 基準 1 の (1) との関係 | d(2-a) | | |
| カリキュラム中の位置づけ | | | |
| 前年度までの関連科目 | 応用数学、応用物理 | | |
| 現学年の関連科目 | 数値解析、制御工学、メカトロニクス実験 | | |
| 次年度以降の関連科目 | 力学特論、現代制御理論 | | |
| 連絡事項 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. これまで学んできた力学の総まとめであり、エンジニアとして不可欠な知識である振動学の取り掛かりとなる科目です。 2. 授業中に配布する問題を必ず解き、複雑な計算でも正確に解答できるようにして下さい。 | | | |
| シラバス作成年月日： H19 年 1 月 20 日 | | | |